

II 音楽空間の構成

1. 集合住宅における音楽空間の遮音性能

1.1 隣戸間の遮音性能

既存の集合住宅（図-22参照）の中に音楽練習室を構成した事例を中心に集合住宅の中への音楽空間を構成することの可能性について検討してみます。

音楽空間を設置する以前に、現状の状態での隣戸間の遮音性能を測定した結果が図-23に示されています。窓からの音の廻り込みいわゆる側路伝搬の影響がみられたので、窓にボードを貼ってこれらの側路伝搬音を遮断することを試みました。しかし、遮音性能は余り向上しませんでした。

戸境床の場合は、図-24に示すように、現状の床仕上げである根太床の遮音効果も認められます。音楽空間を構成する際には天井高の関係で床仕上げを取ってしまいますので、コンクリート裸床での床の遮音性能がベースになります。床の許容荷重から認められる範囲の重量図-25.26に示すような乾式の遮音構造A、Bを構成してみると遮音性能は図-23.24に示したように大きく向上しました。

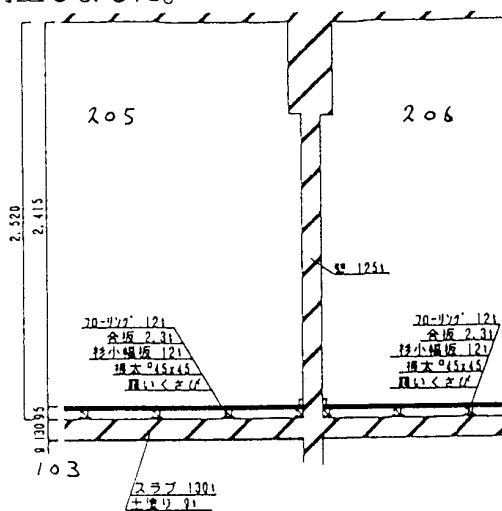


図-22 現状仕様の概要

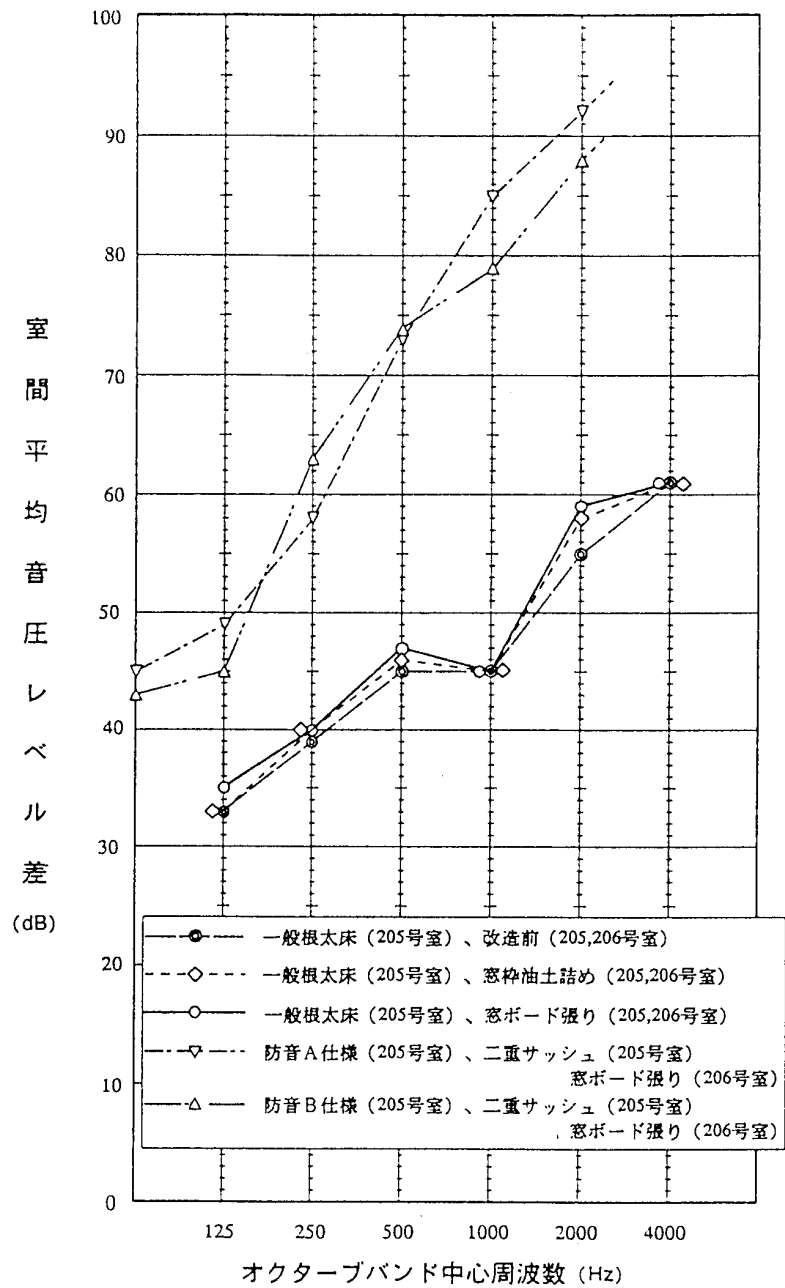


図-23 戸境壁遮音性能測定結果 (音源室 205 号室、受信室 206 号室)

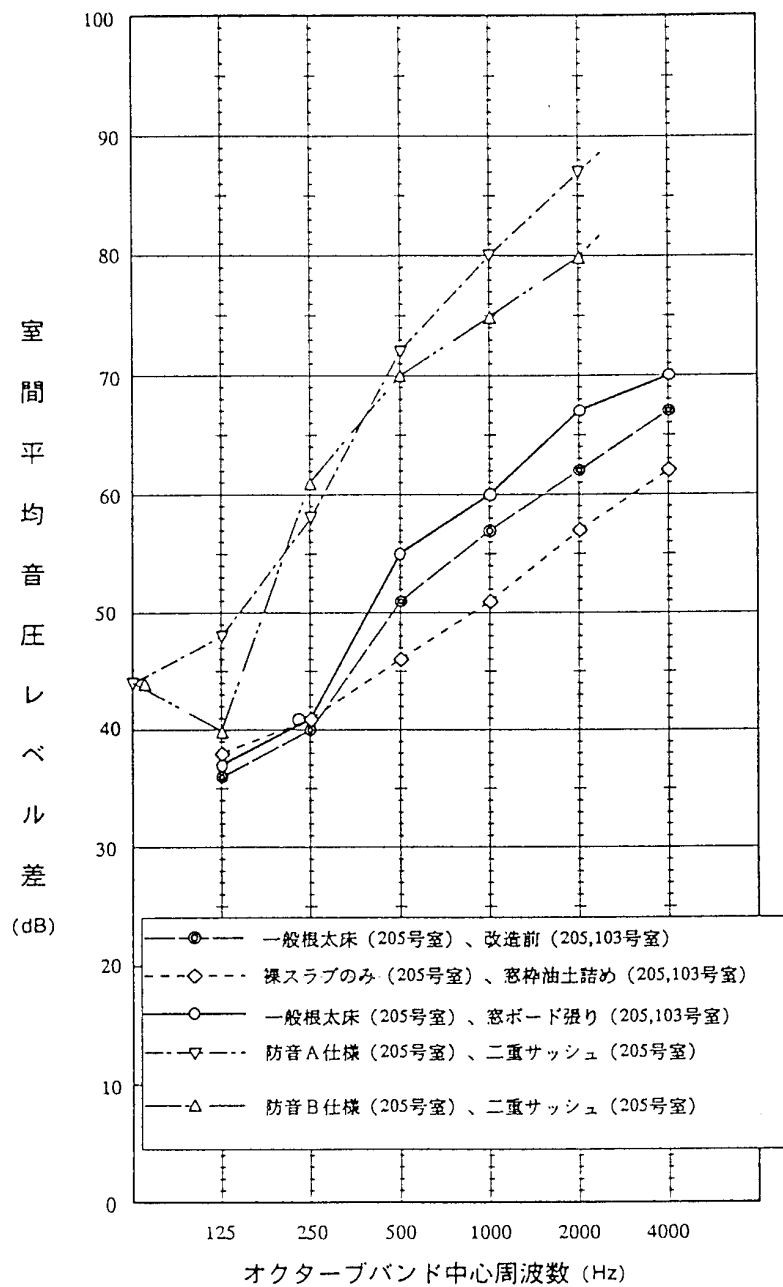


図-24 戸境床遮音性能測定結果 (音源室 205 号室、受信室 103 号室)

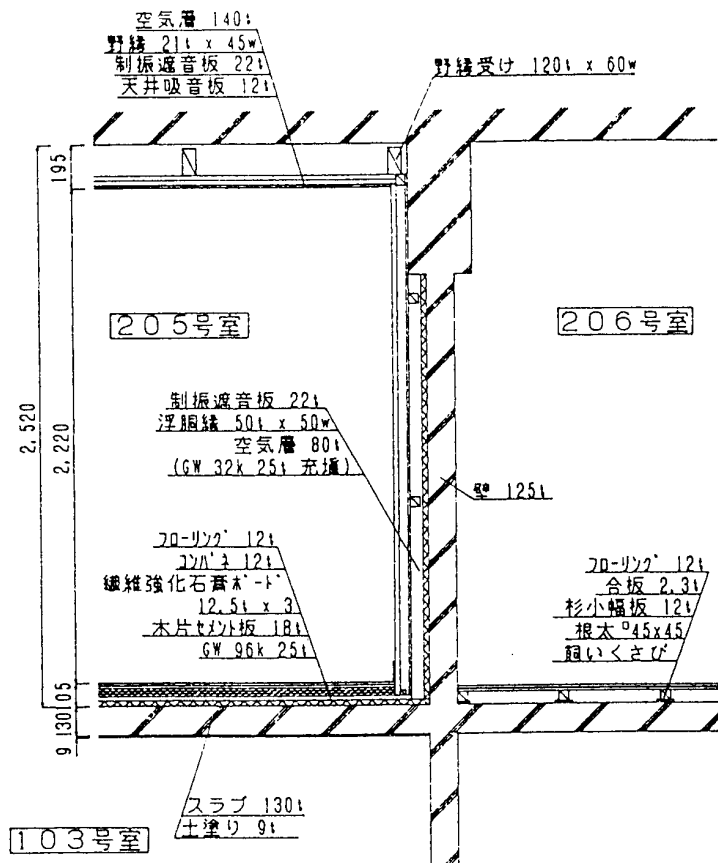


図-25 防音A仕様の概要

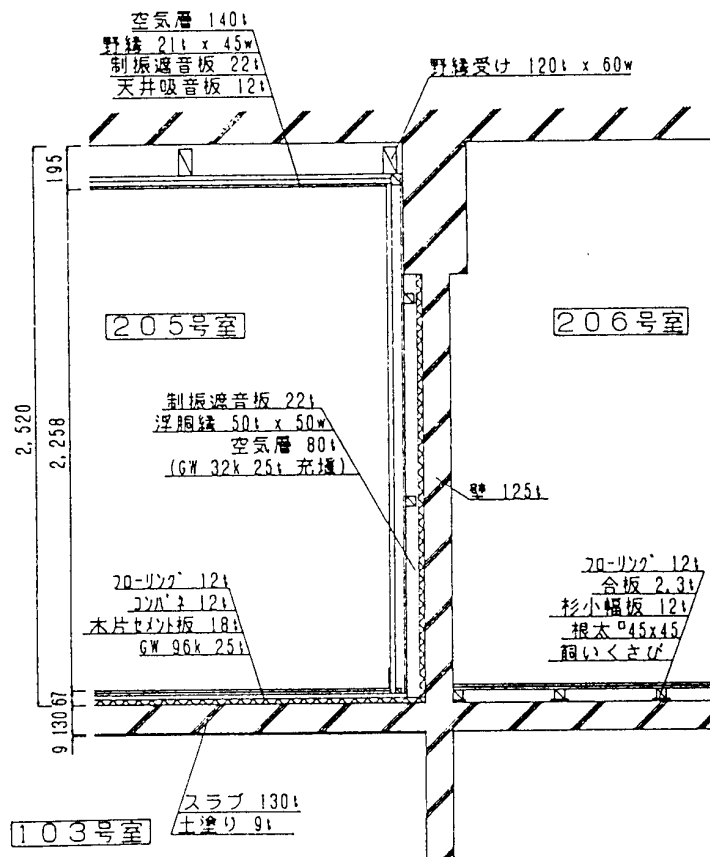


図-26 防音B仕様の概要